

令和5年度八尾市産業振興会議 第3回本体会議 議事録	
日 時	令和6年3月18日(月)15時00分～17時00分
場 所	八尾商工会議所会館 3階 セミナールーム・多目的室
出席者	<p>&lt;委員 12名&gt;  山縣座長、滝本副座長、杉山委員、寺西委員、三宅委員、岡田委員、樫本委員、黒木委員、今岡委員、佐藤委員、山田委員</p> <p>&lt;事務局 8名&gt;  新堂部長、後藤課長、米田参事、山田課長補佐、中谷係長、岡田、運営支援事業者 肥後氏</p>
<p>－事務局による司会で次第に沿って進行－</p> <p>1. 開 会</p> <p>■事務局より、全委員19名のうち12名の委員の出席となっており、八尾市産業振興会議規則第3条に規定する過半数の委員の出席により、本日の会議が成立していることを報告。</p> <p>■魅力創造部長あいさつ</p> <p>2. 議事</p> <p>－山縣座長による進行－</p> <p>(1)チェックイン</p> <p>グラフィックファシリテーターの肥後氏より、チェックインの方法について説明。</p>	

# 第3回本体会議

2024年3月18日(月)  
14:00 ~ @ 商工会議所

## 今日の目的

### 流れ

#### 1. 開会

#### 2. 議事

- 1) チェックイン 10min
- 2) 提言書報告会の報告 5min
- 3) 今期のふりかえりについて 40min
- 4) 末期の産業振興会議について 40min
- 5) チェックアウト 20min
- 6) 市民公募について

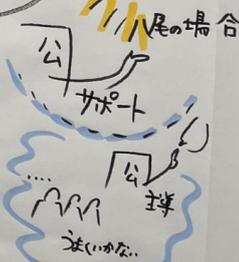
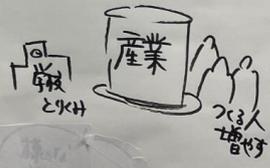
#### 3. 閉会

(集合写真撮影)

## 提言書報告会の報告

### 1) チェックイン

- Good & New!
- 気になること



### (2) 提言書の内容確認について

座長：令和6年1月9日に市長に提言書の報告を滝本先生と報告した。市民や企業が持つ課題を「ぬか床モデル」で化学変化させ、どう発酵させるかを実際に試みてきた。その結果、提言の柱として、様々な課題のくみ上げ、従業員同士の交流、学校との連携、この3つを軸に市長に報告した。

(以下、提言書の概要版に沿って説明)

# やお糠床モデルのチャレンジ

## 令和4・5年度産業振興会議提言書 概要

今期のテーマは、「八尾の未来を共創する～糠床モデルのチャレンジ～」である。地域課題を解決するための「解」を創出するため、どうすれば「発酵」するのかを実証実験し、効果検証した。

「発酵」のメカニズムは、旧来型の直線的な成長モデルではなく、地域に暮らし、働く人々や、地域で活動する企業や組織、諸団体、行政などが、それぞれの得手を活かして、それぞれを補い合い、支え合いながら、良質な化学反応を促し、結果としてイノベティブなアクターが活発に動き、価値創造が実現されるというものであり、これらを具体化していくための「発酵」のメソッドを探ることが、今期の産業振興会議において引き継がれたテーマである。

今期の産業振興会議において、基本的なスタンスとして「コミュニティ参加への醸成」「働くことの楽しさを伝えるためのコンテンツ制作と仕掛けづくり」「挑戦する人を育てる」という3つが浮かび上がった。これは、前々期の産業振興会議の提言書で打ち出された「Be Makers!」というコンセプトを具体化するものであり、前期の産業振興会議で提唱された「やお糠床モデル」において具現化する方針となるものである。

これらの方針を具現化するため、産業振興会議での議論を経て、「子どもたちの創造性を育む」「コミュニティの取り組み」の2つをテーマとして、実証実験を行った。実証実験では、テーマに関連する事例を挙げ、これまでにすでに開始されていたものも含め、幅広い世代への取り組みをもとに検証した。また、実証実験を得て、学校向け出張講座が制度的に実施することが可能になった。

今期の提言は、こういった実証実験の成果や産業振興会議での議論などをうけて行っているものである。

### 【 提 言 】

#### ①様々な課題のくみ上げ

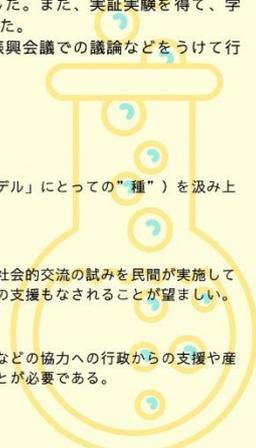
八尾市に存在する多種多様な提案や課題（「やお糠床モデル」にとっての“種”）を汲み上げるための仕組みや方法の整備をする必要がある。

#### ②従業員同士の交流

中小企業における人材不足解消の方策のひとつとして、社会的交流の試みを民間が実施しているが、地域エコシステムの充実という点から行政からの支援もなされることが望ましい。

#### ③学校との連携

子どもたちへの取り組みをすすめるため、地域の経営者などの協力への行政からの支援や産業振興政策と教育政策との横連携を定期的 to 実施することが必要である。





座長:1つ目の『様々な課題のくみ上げ』について、産業振興会議の中で地域が持つ課題の発見や課題のくみ上げ方についてはある程度確認できたと感じている。来期以降は、それをどのように仕組み化していくかが1つのポイントになると思う。

2つ目の『従業員同士の交流』について、今期で大幅に進展したと思う。中小企業は新入社員が少人数で採用され孤立感を感じやすい状況であることから、同世代間や世代を超えた従業員同士の交流は、定着率の向上、離職率の減少に繋がると考え実施し成果があったと感じる。これからも充実させていく必要がある。

3つ目の『学校との連携』について、今期の産業振興会議で最もエネルギーを注いだ部分だと思うが、小学校から大学まで、また大学卒業後の起業家との連携ができるようになったことは大きな成果である。特に八尾市は多くの経営者がいる町で、その特色を活かした連携が実現した。義務教育は多様で大変な部分がありますが、大学まで進むことが全てではないと、小さい頃から様々な可能性を知ってもらい、自分の能力の多様な発揮方法を知ってもらうことが重要だと思う。この点も、次期以降、さらに充実させていくことができれば

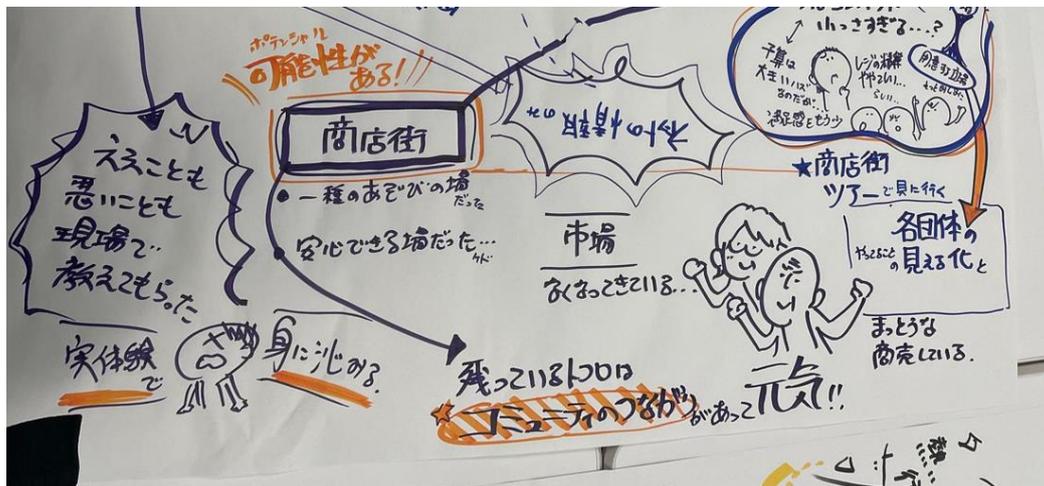
と考えている。

(3)「今期の振り返り」について

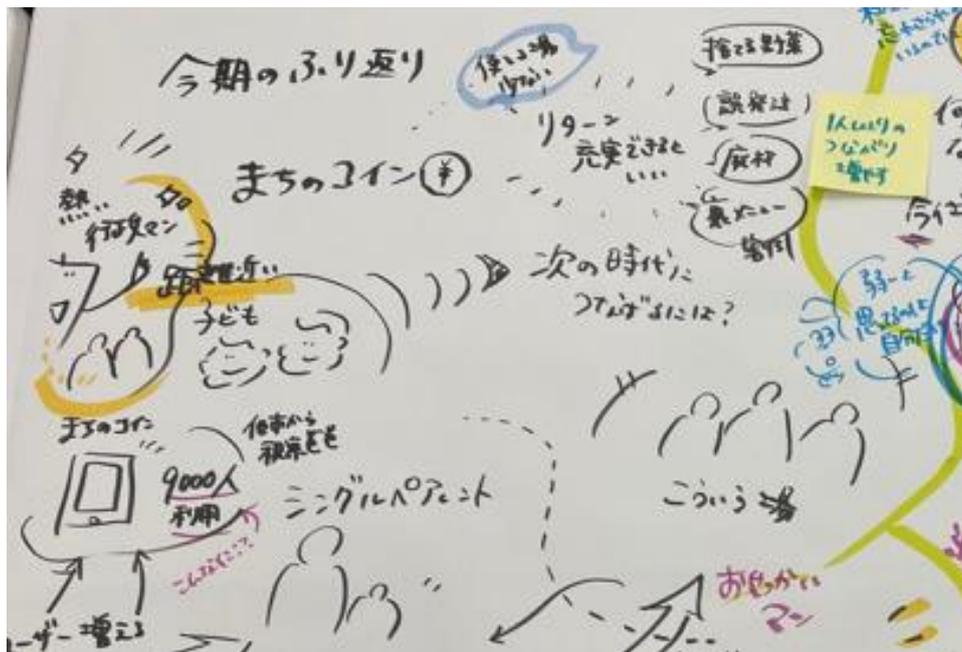
■意見交換をグループワークで実施。

(以下、各グループで出た代表的な意見)

委員：子どもとの接点を考えると、商店街は良いフィールドだと思う。この2年間、商店街にはあまり注力できていなかったもので、今後は商店街も視野に入れて考えていきたい。昔は商店街で大人と子どもが交流する場面があり、そこで褒められたり怒られたりしながら、社会性を学んでいたが、現代では多世代が交流する場が少なくなっており、その機会が少なく感じる。



委員：産業振興会議の委員には「おせっかいマン」が多いので、これからもその姿勢を保ち続けたいと思う。具体的には、糠床を混ぜる役割、つまり周囲を活性化しサポートする役割と、糠床に入る役割、つまり自らも積極的に関与し、協力し合う役割の両方を担っていきたい。このような姿勢を持ち続けることで、地域全体の発展と活性化に寄与できると思う。



委員:八尾市内の様々な立場の人々が集まる産業振興会議だからこそ、適材適所で頼るべき相手が見つかりやすく、各課題に対して的確な意見や効果的な解決方法を見出しやすい。この多様なメンバー構成により、異なる視点や専門知識が融合し、より包括的で現実的な解決策が生まれるので、産業振興会議は非常に有益な場となっている。

#### (4) 来期の産業振興会議について

座長:来期の産業振興会議について、グループで意見交換いただきます。意見交換の参考にしていただくため、これまでの活動実績について事務局から説明する。

(※事務局より、これまでの産業振興会議で議論され今年度事業展開された八尾市の事業についての説明を行う。)

座長:これまで展開された事業も参考にし、「やり残していること」「来期につなぎたいこと」「期待すること」などをグループで共有していただきたい。

#### ■意見交換をグループワークで実施。

(以下、各グループで出た代表的な意見)

委員：農業、商業、産業が議題に上がった。今期は産業関係者が多く参加している一方で、商業や農業の方の参加が少なかったことが事実である。については、次年度に期待することとして、委員全員が参加し、八尾の産業振興をさらに盛り上げることである。

委員：今期の取り組みを来期では小学校や中学校でも積極的に実践し、そこで学んだ子どもたちを集める場を作りたいという意見があった。

委員：今後は老人会や地域団体など、産業や商業以外の団体の参加も進めていきたい。産業振興会議の仕組みは、参加者全員が平等に意見を出せるフラットな構造なので、今後もこの仕組みをうまく活用し良い結果が得られるようにしていきたい。

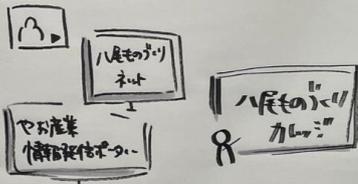
座長：事務局から「万博以降のあり方」について提案があったが、地域資源が十分にあるわけではないため、「人」を最大の地域資源として活用することが重要だという意見が出ていた。具体的には、おせっかい焼きのように人と人が関わり合うことが良しとされる社会にするべきだという内容である。また、「おせっかいグラフ」や「おせっかい本」といったアイデアが行政から提案されたが、人にフォーカスし、人の力で勝負するという考えが興味深いと考える。

# 4) 来期の産業振興会議について

● 中小企業サポートセンター (@商工会館2F)

IT DX

● 産業デジタル戦略

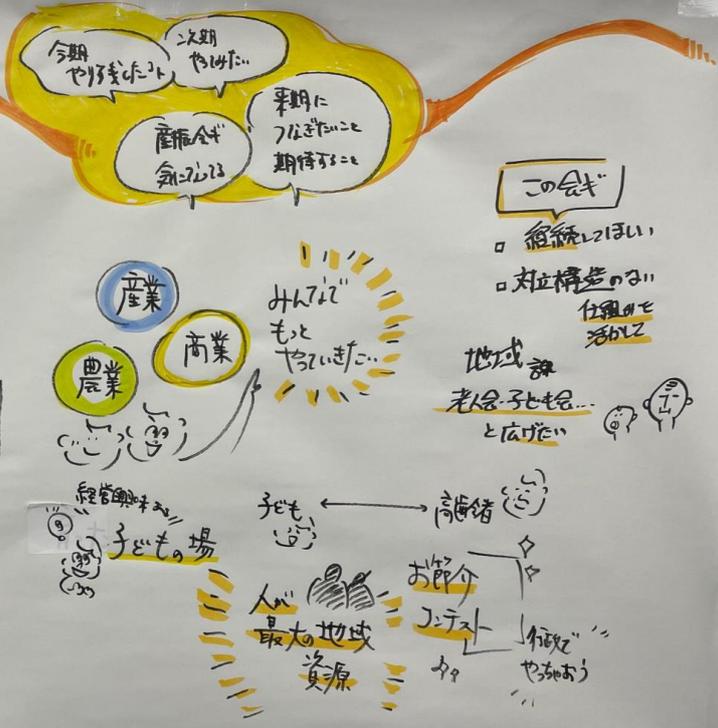


● 八尾市デジタル推進事業

● ビジネスプラン策定事業

● せきぶせお  
イノベーション推進拠点事業

● 学校向け出張講座



この会

- 組織してほしい
- 対立構造の解消

地域  
老人・子ども会  
と広げたい

座長: 実験を行うには多くのマンパワーが必要で、人手が足りなかった。その結果アイデアを実験しきれなかったことが心残りである。ただ、それでも多くの学びはあった。例えば、教育委員会との連携が可能になったように、現場と役所内のつながりを考えることが重要だと感じた。ルールが対立すると成果が出にくいので、現場レベルと行政レベルの連携が重要となってくる。また、もっと広い視点で八尾市全体を見渡す必要があり、様々な声を聞く仕組みが必要だ。例えば、井戸端会議のような非公式な場での意見を吸い上げる仕組みも有効と考える。なお、市役所や行政は人手も予算も限られているため、すべての意見を取り入れるのは難しいかもしれないが、産業振興会議で検討する価値はあると感じる。来期では、様々な課題に対応するための仕組みを考えていくことが必要である。また、商店街には多くの可能性があるため、来期に向けて新たなやり方や楽しいイベントを考案していきたい。

### 3. 閉会

#### ■産業政策課長あいさつ

(令和4・5年度 産業振興会議委員 集合写真)



以上